

## 海部沖にサンマが来遊

海洋資源担当 守岡 佐保, 次長 上田 幸男

**Key word ;** サンマ, 海部沖, 芸東分枝流

---

平成 18 年 11 月 28 日に当研究所に「海部沖にサンマが沸いている」という情報が入ってきました。近年、徳島県でこの時期に大型のサンマがまとまってみられることはありません。今回、この珍しい現象について、解説したいと思います。

サンマ魚群は、11 月 28 日夜間に由岐沖 13 マイル付近で操業するタチウオ曳縄の漁師さんに発見された後、翌日 29 日には鞆浦沖に移動し、その後は徳島県沿岸から姿を消しました(図 1)。短い期間の滞留でしたが、28 日には、広い範囲においてタモ網ですくうことができ、29 日には船内にサンマが飛び込んできたという状況から、濃密な魚群が来遊していたと推測されます。

早速、東由岐漁協の漁業者にお願いして 29 日に由岐沖で漁獲されたサンマ(写真1)を入手し、精密測定を行いました。

その結果、体長は 30~33cm、体重 110~150g で、成熟した卵巣と精巣を有しており、腹腔内に脂肪があることが分かりました。

これらのサンマは、由岐や海部沖で釣りの漁師さんに網ですくわれ、主にタチウオ釣りの餌にされたそうです。徳島県沿岸の定置網には殆ど入らず、まとまって市場に水揚げされなかったため、一般消費者の元には届きませんでした。

一方、高知県水産試験場の方にお聞きしたところ、徳島県に近い東洋町の定置網でのみ漁獲され、11 月 29 日に 6~7 トン水揚げされ、入札されたそうです。「この時期に獲れるサンマにしては脂がのっていたそうです。徳島県で漁獲されたものと同じ群れと思われそうですが、こちらの方は「高知県産サンマ」として徳島市内の量販店で販売されていました。

今年、2006 年は、11 月中旬に北海道でサンマが岸に打ち上げられるというニュースが全国的に話題になりました。徳島県の対岸に位置する和歌山県の串本町では、例年 11 月下旬から始まるサンマ漁が、約 1 ヶ月早い 10 月下旬から開始したというニュースがありました。

平成 18 年度太平洋北西部系群サンマ資源評価票によると、資源水準は高位であり、沖合の資源も多いと報告されています。これらのことから、豊富なサンマ資源の一部が南下中に徳島県沿岸に来遊したと推測されます。2006 年 11 月 28 日の人工衛星水温情報(図 1)からわかるように、室戸岬で黒潮が著しく接岸し、室戸岬から海部沿岸にかけて 24℃の水温を有する芸東分枝流が流入しています。おそらく、紀伊水道沖の黒潮域まで産卵のために南下したサンマが強い分枝流に徳島県海域に補給されたものと考えられます。

本県では、この時期のサンマは漁業関係者の記憶にも無いほどの珍しい事例のため、特異現象として記録を残したいと思います。

本事例のように、人工衛星水温情報は、黒潮の流れに乗って本県沿岸にやって来る魚類の来遊経路を知る情報源として活用できます。そして、海況と漁況に関する知見の積み重ねは、来遊予測の好材料となります。

携帯電話で徳島県水産研究所のホームページにアクセスしていただければ、毎日更新の人工衛星水温情報を簡単に入手していただくことができます。ぜひご利用下さい。



写真1 平成18年11月29日に徳島県海部沖で漁獲されたサンマ

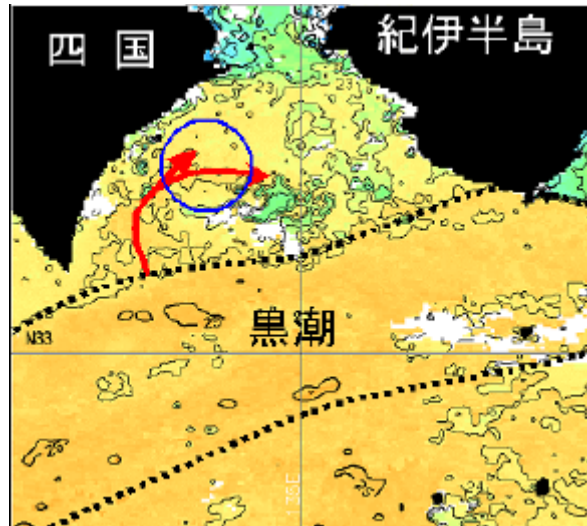


図1 2006年11月28日の衛星水温情報とサンマ来由海域(青丸)。赤矢印は芸東分枝流を示す。

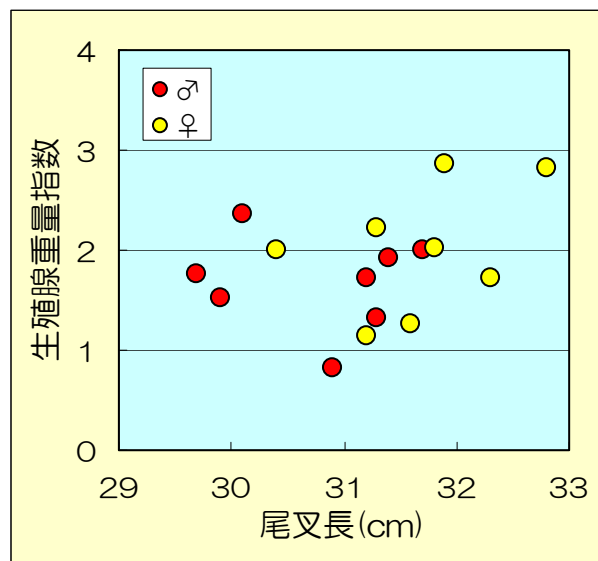


図2 海部沿岸に来遊したサンマの尾叉長 (cm) と生殖腺重量指数 ( $GSI=100 \times GW/BW$ ) の関係。